

ロープの基本結索

Ⅰ 結索の基本事項

(1) 結索の基本

ロープは結索することで役立つ道具です。目的に合った結索が早く、正しくできなければなりません。結索の基本は次の4点です。

- ア 目的にあった結索を選択する。
- イ 早く、正確に、きれいに結ぶ。
- ウ 安全ノットを結ぶ。
- エ 作業後にロープを容易に解くことができる。

(2) 結索の分類

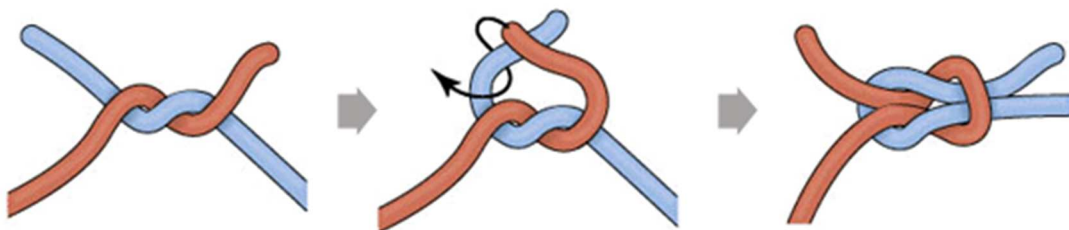
結索は、結合・結節・結着の3種類に分類できます

- ア 結合 ロープの両端又は2本のロープを結ぶ
 本結び・ひとえつなぎ・ふたえつなぎ
- イ 結節 ロープの端又は中間に結びコブ、結び輪をつくる。
 ふと結び・とめ結び など
- ウ 結着 ロープを他の物に縛りつける。
 巻き結び・もやい結び など

2 基本結索

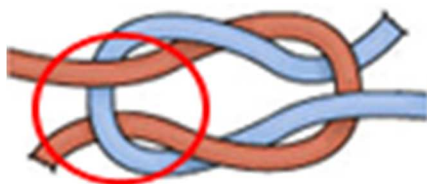
(1) 結合

ア 本結び



本結び（ほんむすび）は、ロープ結索の最も基本となるもので、同じ太さのロープ同士を結び合わせるのに使用します。

なお、結び方を誤ると、解けやすい、たて結びとなるので注意。

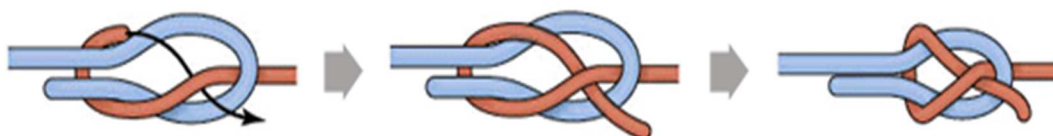


また、よく間違えられるのが「縦結び」

上の図の中の部分で赤青ロープが逆になった場合、左の図のようになり縦結びになります。

似てる結び方ですが、ほどけやすいので注意してください。

イ 一重つなぎ



ウ 二重つなぎ



一重（ひとえ）つなぎは、次の二重（ふたえ）つなぎと同じく、太さの違ったロープや湿ったロープの結合に用いられる。

一重つなぎより二重つなぎの方が強度が増します。

ロープの太さが異なるときは、図の右側（赤色）に当たるロープを細いものとする。

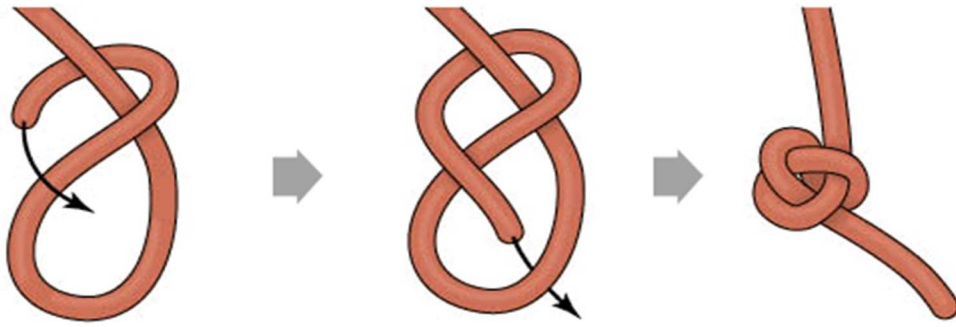
(2) 結節

ア ひと結び



結索の解け防止として使われるほか、ロープの端にひと結びを作ってロープのすり抜け防止などにつかいます。

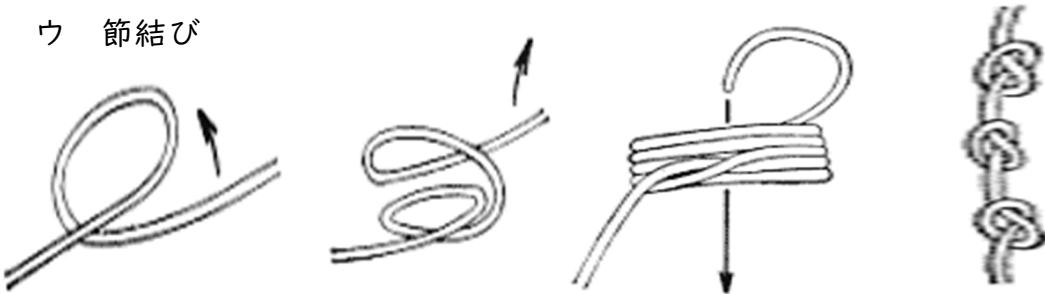
イ とめ結び



結索の解け防止として使われます。ロープが締まったとき、比較的時間が短いのが特徴です。

ロープの端末がほつれている時などに使用します。

ウ 節結び

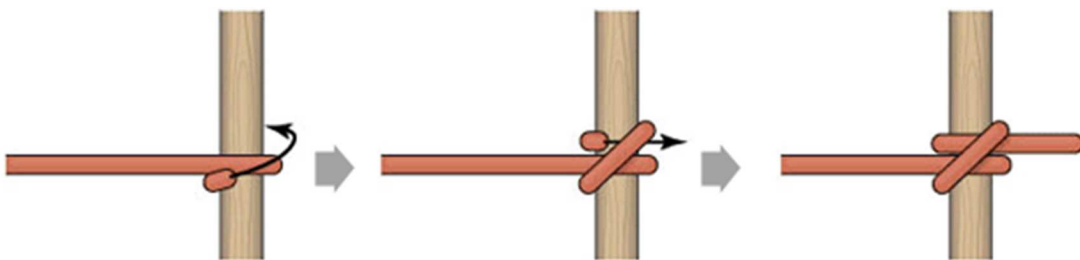


節結び（ふしむすび）は、ロープの中途に節（こぶ）を連続して作り、ロープで登ったり降りたりする時の手掛かりを作るものです。

節結びを解くには、各々の節をゆるめて輪を作り、ロープの端末をその輪に通して、これを引きます。

(3) 結着

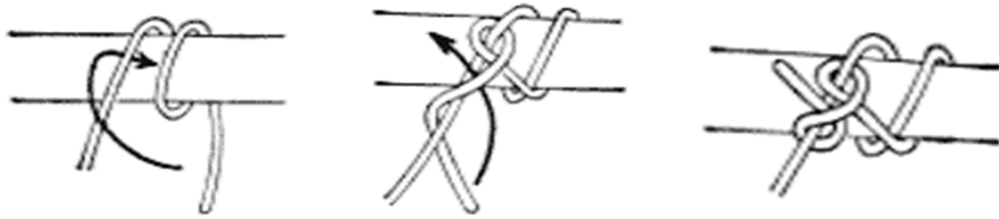
ア 巻結び



巻結び（まきむすび）は、ロープを他の物体に結び着けるのに用いられる。特に、円柱状の物体（丸太やパイプなど）の結着に最も適しています。結びたいものにロープが密着し締め付けられることで強度が増します。

簡単で、多用途に使用できる結び方です。

イ 二回り二結び



二回り二結び（ふたまわりふたむすび）は、ロープを物体に結び着ける結索法で、容易に解けることのない安全確実な方法である。

用途は巻き結びと同様ですが、強度は巻き結びよりも増しています。

ウ もやい結び



もやい結びは、ロープを身体又は物体に結び着けるのに用いられる結索法で、本来は船を結びつけるための結び方です。

大きな荷重がかかってもほどけにくいので、重いものを吊るす場合やペットのリードの固定などにも提起しています。

また、重さによってギュウギュウに締め付けられたはずの結び目が、ほどこうと思えば簡単に解けるのも、もやい結びの特徴です。